

保育北九州

平成25年5月1日
発行 北九州市保育所連盟
〒805-0019 北九州市八幡東区
中央2丁目1-1
(レインボープラザ5F)
電話 (093)661-2153番
発行人 平 沢 茂
編集人 日 野 真人

2013 171



〈提供 戸畑支部〉

表紙	1
視点・就任ご挨拶	2~3
記念式典・祝賀会	4~5
研修報告	6~7
雑感・編集後記	8

みんな なかよし♪!

子どもの現在にもっと心遣いを

視点

新年度、花だよりと共に報じられるのは職場復帰できない待機児童の親たちの保育所を求める切実な声である。

優秀な女性が保育所問題で辞めて行くのを目の当たりにし、懸命の努力の結果、二年後は待機児童がゼロになるとする横浜の林市長の成果を讃える記事もある。

しかし、どの報道をみても子どもの福祉―幸せについて論じるものはない。保育現場が三十年以上も叫び続けている子どもへの視点を、何故社会もマスコミも無視し続けるのであろうか。

五歳児クラスに進級した逞ちゃん。北九州から撤退した大企業勤務のパパが単身赴任先から戻って来た。赴任先に戻る日、どうしても保育園に送つてと肩車にのって全クラスに「私のパパよ」と紹介して廻った。元、本市小児科医会の会長であった故稲光信二医師の次の短歌を思い出す。

育ち盛りの子の日常より
父を奪う企業戦士の言葉を憎む
園で四十度の発熱、ためらいながら職場に電話する。大切な命を預かる責任に心を痛める保育者、急いでお迎えに来た母親の姿をみると、なんと二度余り熱が下がるのが常であ

就任ご挨拶

北九州市保育所連盟会長

平 沢 茂



三月二十六日の連盟総会役員改選におきまして、三たび会長にご推挙いただきました。もとよりその任ではありませんが、会員皆様のお力添えを賜りまして務めを果たさせていただきます。何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、我が連盟は、この四月をもって創立満五十年となり、半世紀の時を経過いたしました。昨年度、「創立五十周年記念」と銘打って、保育まつり、職員研修大会、式典・祝賀会、また記念誌の発刊等、北九州市をはじめ会員皆様方のご支援ご協力

をいただき企画・実施させていただきましたことは、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

「保育は北九州から」を合言葉に、五十年にわたって先達の皆様が心血を注いで築いてくださった連盟の誇り高き保育の歴史は、新たに二園のご加盟をいただき一六一か所(園)として新年度の歩みを進めてまいります。

子どもは社会の、そして未来の宝。子どもの最善の利益と育ちを守ることをのために最善を尽くして本連盟の歴史のページを綴り続けて参りたく願って止みません。

一方、国は、昨年制定した「子ども・子育て関連三法」を平成二十七年から施行するために「子ども・子育て会議」を構成し、子育てのための新しい枠組みを創り出そうとしています。課題を山積したこの制度に対し、連盟もしっかりと目を向けて行かなければなりません。この度国における先の会議に委員として、北九州市私立保育園連盟橋原淳信会長が全

国私立保育園連盟から選任されたことは大変心強いことであります。先生には、健康に留意されてご活躍くださることを願っております。

終わりに、本年度の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

(社)北九州市私立保育園連盟会長

橋 原 淳 信



国においては、いよいよ「子ども・子育て会議」が開催され、これまでの保育制度を根本から見直し、この一年で新たな保育制度を構築するための論議が行われることとなりました。将に保育界にとりましては、大きな転換期を迎えたと言っても過言ではありません。

る。園の体温計が故障している訳ではない。子どもの親に対する信頼の深さ、安心感にはとても叶わないと思うのである。

人が子どもを生み、育て、学ばせるのは何のためであろうか。それは次世代の良き市民としての育ちを願う故ではないのだろうか。

国際NGO Save the Childrenが毎年発表する母親指数は、日本三十二位とロシアと最下位を競っているという。子どもの人生が母親の健康・安全・そして幸福に決定的に依存していることが、国民の合意となっているスウェーデンは第三位である。同じチャートで発表された子ども指数 (Children's Index) もスウェーデンが第一位である。

母親指数は母親の健康、教育、経済、政治状態、子どもの健康、教育を総合的に評価したもので、母親と子どもが幸せな国こそ次の社会を背負う良き市民が育ち、未来(あす)への希望・夢が持てるのではないか。

専業主婦率2%のスウェーデンで親と子が共に過ごす時間を社会の合意で保障されているのに、この国は、延長・夜間・病児・休日保育と子どもへの気持ちを探しようともせず、まるで心のないモノの置場所、パークメーターのような子ども預かり的施策に納得する社会、マスクミに憤りを禁じ得ない。老いたる保育士の嘆きに終わらせないで欲しい。

藤岡 佐規子

このような重要な時期に北九私保連会長として再任されましたが、果してこの重責を担うことが出来るであろうかと自問するとき、会員の皆様方のお力添えがなければ、到底その任を遂行することは至難の業であると自覚いたしております。どうかこれまでより以上に御支援ご協力のほどお願い申し上げます。

北九私保連は、本市の認可された民間保育園がすべて加入している団体であり、その殆どが公益性を持った社会福祉法人の運営となっております。このことからしても北九私保連は、公益社団法人としてステータスを持つ団体となるべく申請中ですが、早晚、認可が下りることとなると思います。

社会に信頼され、貢献する団体として更に活動を広げることが求められることとなります。それには会員の皆様方のご協力がなければその役割を果たすことができません。

これまで先達の諸先生が営々と築き上げて下さった保育の道を汚すことのないよう、行政とも車の両輪としての連携を深めながら、時宜に即した行動をとり、事に当ることを肝に銘じ就任の挨拶とさせていただきます。

北九州市保育士会会長

北野 久美



この度、四月二十三日の総会にて再任され四期目を務めることになりました。

保育の仕組みが大きく変わる、まさに「大変な」二年間に、果たしてその役目が務まるのか自分自身の力不足にいささかの不安はございますが、この揺るぎない基盤を持ち会員相互の連携の取れた北九州市保育士会の会員の皆様のお支えをいただきながら、選んでいただいたご期待と信頼にお応えできるよう努力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度は「五十回」という冠のつく保育所連盟の各活動に参画し展開する中で、立ち会う事の出来た幸せと共に北九州の保育の歩みを学びなおすことができましたし、会とし

てもDVD作成や小倉駅前的大型ビジョンの効果的な活用を含めた発信で子ども達の育ちに寄り添う事の使命を実感出来た一年でした。

さて、今年度からの二年は法律で示された新たな制度の骨格についての具体的な運用にかかる様々な取り決めや基準について「子ども・子育て会議」にて検討されます。その議論の場に橋原私保連会長が委員として参加されていますので、守らなければならぬ保育については発言していただけたらと思います。私自身も子どもの代弁者として発信する必要があります。

今年度北九州市保育士会では【保育の真と偽】をテーマに保育士会活動を展開いたしますが、新制度で決まった事と今後の動きに關しても発信の方向性を間違えないように取り組めます。北九州市保育士会発足プレ四十周年であることも踏まえながら、活動を展開させたいと思います。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

北九州市保育所連盟 創立50周年記念式典・祝賀会

平成二十五年一月十八日（金）

記念式典 十七時より

祝賀会 十八時より

リーガロイヤルホテル小倉

四階 ロイヤルホール

〈オープニング〉

ざわめきと共に開場を待つ長い列が、そのまま北九州市保育所連盟の長い歴史を表しているように感じた。会場入口で来賓を出迎える役員たちの笑顔が、毎朝、各保育所（園）で子どもたちを迎え入れてきた保育者の笑顔に重なる。

五十年——半世紀にわたって行政と手を携えて作って来た、北九州市保育の歴史の重みを感じさせるオープニングであった。

記念式典は山本文雄副会長の発声で幕を開けた。続いて緒方



博子さんの奏でるアイリッシュユハープの調べが会場に流れる。どこか懐かしさを感じさせる優しい音色が、まるで北九州市保育の歴史を讃えるかのように、五百名を超える参加者のテーブルの間をたゆたう。

〈主催者挨拶〉

北九州市保連を代表して平沢茂会長が挨拶に立った。その右手には、



初代北九州市保連会長であった故西村法昭先生の御写真をお持ちであった。平

沢会長は西村法昭先生の写真を掲げながら、その御苦勞を偲ばれた。続けて第二代西村賢了先生、第三代西村良樹先生、第四代藤岡佐規子先生、と四人の歴代会長先生の名前を順にあげ、その御苦勞を讃えられた。そして、長年にわたる北九州市保連の歩みを支えてこられた、物故者を含

むすすべての会員諸氏へも謝辞を述べられた。平沢会長は「組織は力」「保育は北九州から」と先達の言葉をあらためて紹介され、これからも子どもたちの未来へと続く、新しい歴史を作っていくきたいと力強く宣言された。

〈来賓挨拶〉

来賓を代表してまず北橋健治北九



州市長が登壇された。北橋市長は、長年にわたるたゆまぬ努力と子どもたちへの深い愛情を持って、北九州市と同じ五〇年の歴史を作って来た北九州市保連の功績を讃えられた。また歴代会長一人一人の名前をあげられ、敬意を表された。最後に「子育て日本一を実感できるまち」を作るために共に手を携えていきましょうと締めくくられた。次に北九州市議会議長の代理として保健病院委員会委員長の木下幸子議員が、保育を必要とする子どもたちの為に、これからも頑張つてほしいと代読された。三番目に全国社会福祉協議会全国保育協議会副会長の万田康先生が会長の挨拶を代読され、最後に全国私立保育園連盟会長の近藤道先生が大きな時代の流れの中で進んできた五十年であり、その足跡に敬意を表したいと述べられた。

〈来賓紹介〉

続いて、遠近各地よりお越し頂いた来賓の方々の紹介があり、盛大な拍手が贈られた。

〈五十年永年勤続特別表彰〉

中村尋子先生、藤岡昭正先生、藤岡佐規子先生、橘原悦子先生、北野一恵先生、西村賢了先生、西村知子先生、黒岩和子先生が登壇され、五十年永年勤続特別表彰の席にお着きになられた。平沢会長より各先生へ表彰状が授与され、北九州市保育士会の役員より花束が贈呈された。



会場からも盛大な拍手が贈られ、受賞された先生方の永年にわたる御功績を讃えた。そして受賞者を代表して藤岡佐規子先

生が挨拶された。先生は、子どもたちの笑顔に元気をもらい、皆様からも大きくお育ていただいたと語られた。続けて、皆で力を合わせて鉄の結束を誇る組織を作り上げ、保育は北九州からとの燃えるような情熱を以て、今日の北九州市保連が出来たのだと仰った。また保育という言葉を死語にしないためにも、私たちは頑張り続けなければならぬと話された。続いて、北九州市保育研修大会で記念講演して下さったこともある栗原一登氏が作詞された「組曲 北九州」の第10章「父祖より幼き者へ」の詞を以下の通り紹介された。

(祖父母の歌)
 吾子よ 孫子よ われらは 拓いた
 この街の 歴史を

(父母の歌)
 父祖よ 愛し子 われらは 築いた
 この街の 栄えを

(子等の歌)
 父母よ 祖父母よ われらは 受け
 継ぐ この街の 未来を
 ふるさとよ 永久に奢らず 病むこ
 となかれ
 わが街よ 永久に 新たに明日に
 拓がれ

藤岡先生は最後に、わたしたちは「視点はいつも子どもたち」との思いを守り続けて行きましょう、と締めくくられた。



創立50周年記念式典・祝賀会 H25.1.18 於リーガロイヤルホテル小倉
 北九州市保育所連盟

〈東日本大震災義援金贈呈〉



毎日新聞 西部本社広告事業局を通じて、震災で園舎が倒壊した岩手県釜石市の二つの保育園を支援

するために、平沢会長より義援金が贈呈された。

〈祝賀会〉



西村良樹先生の御発声による乾杯で、祝賀会の幕が開いた。西村良樹先生は御発声の中で、50年いや、60年以

上もの長きにわたって受け継がれてきた保育の歴史を、これからも急ピッチで歩いて行かねばならない。これからの情熱溢れる活動を誓う乾杯でありたいと語られた。祝宴が始まり、歓談の輪があちらこちらで広がっていく。どのテーブルからも、歴史的な場に居合わせることでできる喜びと、これから進んで行く保育の道への誓いを新たにすべく活気溢れる会話が聞こえてきた。この懇親の場に花を添えるかのように、馬頭琴演奏家でホーミー唱者でもあるマイラスさんの民族音楽が、岩山を吹き抜け草原を渡る風のように会場を流れていった。

万歳三唱は九社連保育協議会会長

の佐藤成己先生が音頭を取って下さった。閉会の挨拶は北九州市保育士会会長の北野久美先生が務められた。北野先生は北九州市保連顧問の先生方を紹介され、北九州の保育がこれからの50年も揺るがぬよう、仲間と手を取り合って頑張っていきたいと述べられ、この記念すべき会を締めくくられた。



研修報告

50周年記念式典・祝賀会

北九州市保育所連盟創立50周年記念式典及び祝賀会が一月十八日リーガロイヤルホテル小倉で行われました。

全国はもちろん九州各県からもたくさんの方々が参加され、北九州市の前市長・現市長・行政関係者と来賓の方々を含めて総勢五百二十九名の参加者の中で賑々しく執り行われました。

オープニングは優しい音色のアイリッシュハーブが奏でる「The last rose of summer」で厳かに始まりました。

北九州市はまさに「市政50周年」「若戸大橋開通50周年」と偶然の重なりの中に歴史の重みを感じずにはいられません。

式典の中で最も圧巻だったのが50年永年勤続特別表彰受賞式でした。受賞者お一人おひとりが子どもの最善の利益を常に考え子どもの立場に立ち子どもの代弁を声高らかに唱えてきた方々ばかりです。

北九州市の保育は全国的にレベルが高く、今あるのはすべての先達が指針を作ってくれたお蔭以外の何者でもないと考えます。

藤岡佐規子先生の言葉の中にこれまでの歴史を刻んできた熱い思いが記憶の中からほとぼり、よくぞこれだけの出来事をつぶさに覚えられ記憶されていること、と超人的存在に思いました。

最後に保育の生みの親 西村法昭先生の「保育は人なり、保育は北九州市から」という言葉が私たちの保育の道しるべであり、教訓として永久に不滅の言葉として残していきたいものと肝に銘じました。

この素晴らしい先方に今度の50周年まで応援してくださいとの北野久美先生の言葉にみんなの納得を誘ったのがとても印象的でした。

花乃路保育園
恵原 起世子

第30回北九州市保育士研究研修会

二月十二日に行われた研修会に参加させていただきました。

今年度は市制五十周年、北九州市保育所連盟設立五十周年の節目の年。藤岡先生の講演では、北九州市の保育の歴史を学びました。また、今の保育があるのは先輩方の大変な努力の賜であり、現在の北九州の保育に生かされているのだと実感しました。

北野先生の基調報告では、「北九州保育五十年の歩み」で、北九州市保育士会が日本でいち早く取り入れた制度が多



いということや、今までの活動を維持しながら発信していく重要性について、話されました。記念講演では、鯨岡先生より、二園のエピソード記述の実践発表に基づいての講演でした。

子どもの意欲は、大人が、子どもの不安を取り除いて信頼関係を築き、自己肯定感を育むことが大切だと、私達には参考になることばかりでした。また、子どもの負の経験から生まれる感情を共有していくことが、とても重要だということでした。注意をし、フォローして子どもと向き合っていくことで信頼関係が深まっています。子どもも愛されているという

感覚が生まれ、それが自己肯定感の根になっていくことを学びました。今日の学びを今後の保育に生かして、子どもと共に成長していきたいと思えました。

岩崎保育園
入江靖代

平成24年度保育所(園)職員総合研修大会

一月二十九日、ソラリア西鉄ホテル彩雲の間に於いて「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現」をテーマとしてという主題で、研修大会が開催されました。

午前中に「二年度の園長として考えていかなければならないこと」「子どもたちの運動発達と怪我の関連性」「心を育てる食育をめざして」「心を育てる教養と環境」というテーマで四人の先生方の実践発表を聞かせていただきました。

午後からの記念講演では、淑徳大学総合福祉学部教授・同大学院教授の柏安壽先生より「子ども・子育ての新たな仕組みについて」福祉の視点を中心に」と題しお話がありました。平成二十四年八月二十二日に公布された子ども・子育て支援関連3法について詳しく説明してくださいました。

施行期日は、消費税が10パーセントに引き上げられる予定の平成二十七年以降であるとのことですが、保育を巡る動向が大きく変化すること、は間違いないことのように感じます。虐待やネグレクトが増え心配されている昨今、制度が変わること、で短時間しか保育園を利用することができなくなると、子どもの育ちの保障はどうなるのか不安は一杯ですが、私たち保育士は常に子どもに視点を置き、子ども



の今に寄り添いながら、保育の重要性について、社会に向けて発信していかなければならないと思えます。貴重な研修に参加させて頂き、ありがとうございました。

清心保育園
竹田 智恵子

第39回全国保育士研修会

平成二十五年二月十八日、十九日の二日間、横浜市のパシフィコ横浜で第三十九回全国保育士研修会が開催され、出席しました。

一日目は「行政説明」と「シンポジウム」などがありました。行政説明では、保育をめぐる国の動向と課題と題して、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課の橋本課長から、子ども・子育て関連3法について、その中で待機児童解消のための保育士確保施策の拡充と保育士の資格取得、継続雇用の強化と保育士の処遇改善などの話がありました。

シンポジウムでは、乳幼児の育ちに望ましい保育とは？子どもの育ちと保育について考えるというテーマでコーディネーターとシンポジストの方たちによる話や、いろいろな角度からの意見があり、総合すると「子どもを笑顔にできる保育者の存在が大切だ」ということを強く感じました。

東日本大震災を振り返った話では、震災の様子を聞き、職員一人ひとりが子どもたちを守りたいという思いが強く伝わり、感動すると共に保育士魂を感じられ、素晴らしいと思うと同時に、できることをもう一度、自園でも考えていかなければならないと思えました。

二日目のコース別研修は、「保育所における保育士の人材養成とは」に参加し、保育をめぐる動向やキャリアパスについて学びました。午後からはグループ討議で各地域の先生方とグループで話し合い、様々な意見交換や方法を学びとても勉強になりました。この学びを今後の保育に生かしていきたいと思えました。

双葉保育園
楠之木 佳枝

各支部名物

戸畑支部



の鶴の一声で保育士会会長さんと職員で「ボウリング同好会」を結成し、月一回、各園の先生

巳年がスタートした平成25年1月26日(日)、第四十二回ボウリング大会が行われました。そこで「奇跡が起こりました。戸畑支部の優勝です」戸畑支部は総園数十一園です。その中から、初めは各園単位での練習で上手な方を選手に選んでいました。数年前にも優勝に輝いたこともありましたが、いつの間にかまた最下位へ。あれはまぼろしの優勝だったの……、の声もちらほら。「ただ投げているだけでは上手にならず、これではいけない」との支部長さん



方とボウリングの練習を始めることになりました。毎月練習に通っている方の中には、マッシュルームを買って持参される方

や、「何でも格好からよ」とイメージを膨らませ、プロのような投げ方で、一球入魂する姿には頭が下がりました。練習も楽しくなり、日頃のストレスの発散にもなってきたのです。しかし、これでは基本的なことがまだまだうまく出来ていないので、プロボウラーの方より基本的な指導を受けることになりました。まずはボールの選び方からです。それぞれの指にあったボールを探すことが重要です。次に投げ方について、フォームやどこを狙い投げるのか、それに立ち位置などがポイントになることを学びました。あとはバランスをとって丁寧に投げながら運にまかせ練習あるのみでした。ボウリン

グは奥深く、その日の気分によりスコアが良かったり、悪かったりします。平常心を保つことは大変です。でも今年はいつもの以上にボウリングに對しての思いが強くなりました。今年こそは……、来年こそは……、と言いつつボウリングを通して職員間での交流(結束)を強めることが出来ました。このことは、保育にもつながっているようで、職員が楽しまなくてはその場の雰囲気も盛り上がりません。日々の積み重ねの大切さや職員間での絆も深まり、この結果が優勝へとつながったことを戸畑支部としてはとても嬉しく思いました。また選手だけではなく応援に来て下さった方々の歓声を肌で感じつつ、今まで感じたことのない一体感に戸畑支部は包まれていました。本年度、年頭平沢会長さんが言われていたように「組織は力なり」という言葉が思い浮かびました。また「思いをかける」ことにより出来ることがあるということも痛感しました。成せば成るの気持ちで「ボウリング同好会」、来年度の優勝に向けて、コツコツと練習に励みたいと思っています。

※豆知識：ボウリングとボウリングの違いがあることをご存知ですか。ボウリングはレクレーションとして楽しむそうです。ボウリングは競技として行うそうです。今回、戸畑支部では競技として参加させて頂き、その力を十分発揮することができたと思えましたので「ウ」とつけさせて頂きました。



西村法昭顕彰会へご寄付

八幡西区 社会福祉法人さかえ会 理事長 夜部栄子 様より 多額のご芳志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げます。



雑感 『繋がり合って』

私の保育所には保護者会があります。数名ずつ役員さんを選出して行います。役員と言う言葉は保護者にとつては良いイメージがないようで、進んで「します」と言う人はあまりいません。その中から何とか引き受けてもらっているのが現状です。

前年度の最後の役員会で、一人ずつ「役員をやってみてどうだったか」を尋ねてみたところ、予想しなかった言葉が聞かれました。

「正直に言うと、負担に思っていました。が運動会のお手伝いをした時、先生達の大変さがわかりました。」「役員会で子どものクラス以外のお母さん達と話すことができたのも楽しかったです。」次の方は「餅つきのお手伝いをした時、子ども達がおいしそうにたくさん食べているのを見て嬉しかったです。」「役員をして担任の先生以外とも話しやすくなったし、やっぱり良かったです。」等がその場にいた全員から出ました。保護者の本音を聞くことで私は心の中に温かいものが込み上げてきました。翌日、他の職員にも伝えて喜びを共有しました。家庭に丁寧に関わることは子どもや保護者を応援する事だと思いました。また、当保育所は校区の小学校と中学校の支援加配の先生が月に1回保育所に集まり「保小中の連携会議」をしています。

この会議はかなり前から行われています。それぞれが月の行事計画や交流の計画案等を持ち寄り、情報交換も含めて話し合います。卒園児達の小学生や中学生になった姿を聞くことができ、想像し合いたくありません。

小学5年生と年長クラスの交流では、小学校はこんな場所だから安心して入学してほしいと言うことを絵や歌や寸劇で一生懸命に表現してくれました。それを聞いた子ども達は「楽しそうだなあ。」とワクワクしていました。

毎年、中学2年生は保育士体験に来ています。初めは子どもを前にしての関わり方がわからず、困っている中学生もいます。子どもからの肌の触れ合いを通していっしょに互いに笑顔になっていきます。この様子を見て、自然に湧き出る笑顔ほど素敵なものはないと感じました。「将来は保育士さんになりたい。」と恥ずかしそうに言っていた中学生の背中を見送りながら嬉しくなりました。

私はこれからも、保育所で出会う親子や小中学生と関わる機会を大切にして繋がり合っていきたいと思います。

新門司保育所

喜多島 克子

編集後記 —辛抱するって?—

「藝人春秋」(水道橋博士著 文藝春秋発行)という本の中、芸人の石倉三郎さんの台詞で「辛抱するのは、辛さを抱きしめるってことだからな。我慢するってことじゃない」との一節を目にしました。この一節を読んで、ああ、なるほどと膝を打ちました。つらいこと悲しいことを、ただ通り過ぎるまでじっと堪え続けることが辛抱ではないのだ、と教えられました。つらいこと悲しいことを、そのまま我が胸に抱きしめることこそ辛抱なのだ、と気づかされたのです。子どもたちの喜び悲しみを、そのまま我が胸に抱くことこそ保育なのだろうと感じました。保育の道は楽しいことばかりではありません。時には泣きたいような気持ちになることもあるでしょう。そんな時こそ、自分の気持ちをそのまま抱きしめてあげてください。

「保育北九州」編集長 日野真人